



これが、**Fy**。



横浜国立大学教育学部

附属横浜中学校

YOKOHAMA JUNIOR HIGH SCHOOL
AFFILIATED WITH THE COLLEGE OF EDUCATION,
YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY

Fyが目指す人間像

柔軟な思考力と行動力で、これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力を身に付けた人間。

学校教育目標

『知』自ら課題を設定し、その解決に向けてねばり強く取り組む意欲と能力を育成する。
『徳』互いに認め合い、共に生きていく関係をつくる意欲と態度を培う。
『体』自分の身体について理解を深め、健康や安全に対する関心を高める。

学校編成と内訳

- 各学年3クラスずつの9クラス編成：各学級の定員は帰国生徒5名を含む40名。
- 出身校内訳：国公立小学校出身者（一般）、附属小学校出身者、帰国生徒。

本校の学習活動

横浜国立大学教育学部と連携をとりながら、最先端の教育理論に直結した独創的な教育を実践、日々の授業においては、次代をみすえた新しい研究テーマを取り上げ、意欲的な教育を展開しています。

問題発見・解決能力の育成

自ら課題を見だし、問題に対して解決を図ることをとおして、課題を解決していく態度を育成し、課題を解決するための能力(思考力、判断力、表現力等)を高めます。



整ったICT環境

生徒一人一台のタブレットパソコン環境を構築し、学校教育に必要なICTを活用した研究活動や授業実践を推進しています。現在、学習の道具として生徒が学校でも自宅でも常に活用できる環境にあります。

言語能力の向上

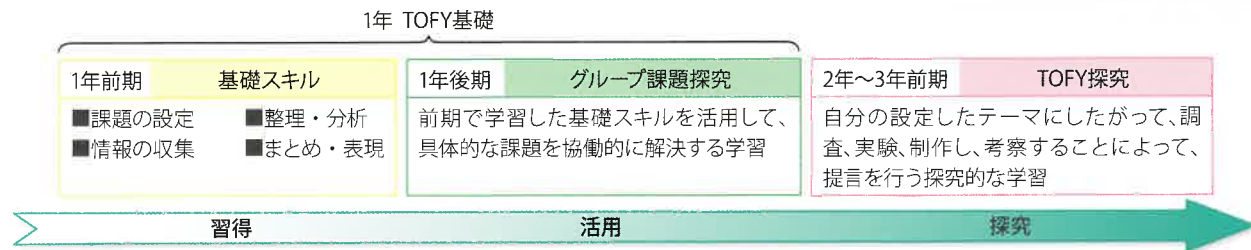
文章や図表、現象などを理解・評価しながら捉える力や、自分の考えをまとめる力、自分の考えや意見を発信する力を育成します。



総合的な学習の時間 (TOFY)

● TOFYとは

TOFYとは、Time of Fuzoku Yokohamaの略です。1年生の前期に探究の基礎を学び、後期にグループで課題を決めて探究活動を行います。2年生からは個人で設定したテーマに応じて、4つの講座（人文社会科学、科学技術、芸術、健康科学）に分かれて探究活動を行います。



● TOFYを通して身に付ける力

- (1) 自ら見いだした課題について、見通しをもって多面的・多角的に考え調べる力
- (2) 得られた根拠を基にして、自らの考えを提言したり、思いを工夫して表現したりする力
- (3) 調べたり提言したり表現することを通して、自己の生き方について考える力

【1年生グループ探究テーマ例】

1	雨の日に靴下をぬらさない歩き方とは
2	学校生活で必要とされるUDとは
3	情報が伝わりやすいスライドの作り方とは
4	人を納得させるには
5	昇降口の混雑を緩和して校舎に入るには
6	和服の魅力を中学生に知ってもらうには
7	汚れや菌が十分に落ちる手の洗い方とは
8	日中のパフォーマンスを高める朝ごはんとは～1Aの時間割から考える～

【3年生個人探究テーマ例】

人文科学	多くの中学生に書道の魅力を伝えるために必要な書写教育とは
科学技術	小児の薬に対する苦手意識を減らす工夫とは
芸術	比率を使用した多くの人がひきつけられる伝統文様とは
健康科学	身近な食材で簡単につくれる、中学生に適した栄養素が摂れるお菓子とは

本校の特色

教育研究活動

本校は設立の趣旨に基づき、中学校教育全般にわたって、理論に裏打ちされた実践的研究を行い、次の3点を教育研究の基本的使命にしています。

1. 横浜国立大学との共同による教育課程の研究開発
2. 多様性・包摂性を前提とする教育活動のあるべき姿の研究
3. 教育実践研究の成果を全国の学校に発信し、貢献すること

教育実践研究の成果を、毎年開催している研究発表会で発表することは勿論、各種学会や全国規模・自治体規模の研究会においても積極的に発信しています。また、県内外からの要請に応じて本校の教員を講師として派遣し、教育活動に関する講演や教育活動に対する助言などにも年間を通して対応しています。



学校教育人材の育成

これからの学校教育の担い手となる優れた人材を育成するため、学部3年生の教育実習、教職大学院生の長期学校実習をはじめ、大学1年生が教育の実際を学ぶ教育実地研究、2年生が体験的に教育に参画するスクールデイ実践、4年生が教育実習経験をさらに研究的に高める教育実践演習など、様々な実習系科目の場として、年間を通して多くの学生・院生を受け入れ、大学と連携して支援しています。



帰国生徒教育

全校生徒の1割を占める帰国生徒に対して学習・生活の両面について適応指導を行っています。学芸祭では、帰国生徒による発表コーナーを設定し、海外での経験を生かした楽しい企画を通して全校生徒の国際理解を深めています。



中・高・大連携

平成24年度より本校から「連携枠」による神奈川県立光陵高等学校での受け入れを行っています。中学校・高等学校の6年間を通じた、「生徒一人一人の個性を生かし特性を伸ばす教育」の実践・研究を進めています。光陵高校での授業見学や大学を訪問して、授業体験なども行っています。

光陵高校との「連携枠」の募集人数の上限は1クラス相当とし、調査書や学力検査によらない簡便な入試を行っています。



Fyの年間行事

附属横浜中学校では年間を通し多彩な教育活動を行っています。学年ごとに実施される校外学習や学校を挙げて行われる体育祭・学芸祭などが組み込まれています。生徒の自主的な活動により企画運営され、生徒相互の人的なふれあいや信頼関係の大切さを学び、生涯の楽しい思い出を作ることができます。



体育祭

赤・青・黄の3つの連合に分かれ競技します。各連合でテーマを決め、クラス旗やTシャツを作成したり、ソーラン節と創作ダンスの練習をしたりと、学年を超えた交流があります。



TOFY成果発表会

3年生は1年半かけて行ってきた研究の総まとめ、2年生はこれから本格的に始まる研究の見通しの発表、1年生は体験的にやってきたことをポर्टフォリオで発表します



各学年校外学習

1年生

国大・光陵訪問では、高校生とお話したり授業を見学したり、大学の教授の講義を受けたりします。職業講話では、さまざまな職種の方をお招きし、働くことについてのお話を伺います。



2年生

1年生の学習を生かしながら、午前・午後で2箇所の企業を訪問し、お話を伺ったり、インタビューしたり、体験したりします。



3年生

広島・京都・奈良を訪れます。日本の伝統的な文化に触れたり、平和について考えたり、仲間とともに充実した時間を過ごします。



学芸祭

ステージ発表では、各クラスで合唱を披露します。また、帰国生徒の会の代表者による発表もあります。展示発表では、日々の教科学習の成果物が多数展示されます。



- 始業式・入学式
- 生徒会・オリエンテーション
- 学年保護者会
- 新体力テスト
- 身体測定
- 1年校外学習

4

- 教育実習Ⅰ
- 生徒総会
- Fy生対象光陵高校説明会
- 帰国生徒の会(校外)

5

- 体育祭
- 定期テストⅠ
- 附属小学校対象授業参観

6

- 個別面談
- 定期テストⅡ
- TOFY成果発表会
- 教科面談

7

- 収穫祭発表会(中高大連携)

8

- 教育実習Ⅱ
- 生徒会役員選挙

9

- 職業講話
- 国大・光陵訪問
- 企業訪問
- 修学旅行
- 学芸祭(展示)
- 学芸祭(ステージ発表)

10

- 定期テストⅢ
- 3年保護者面談
- 研究発表会

11

- 個別面談

12

- 3年定期テスト

1

- 定期テストⅣ
- 2年校外学習

2

- TOFY中間発表会
- 卒業式
- 修了式

3

総合的な学習の時間 (CAN)

● CANとは、Career Aim Navigationの略で「人生行路の航海術を学ぶ」という意味です。生徒たちは、TOFYや教科の学習、道徳や特別活動、各種行事のそれぞれが何を目標しているのかを共有した上で計画・実践に臨みます。CANでは、その節目や終末での振り返りを通して自身の成長点や課題を捉え、それらをキャリアパスポートを使って見える化しながら、自身のキャリア形成に生かしていきます。

- CANを通して身に付ける力
 - (1) 活動や体験の中に、自分にとって意味ある課題を見つける力
 - (2) 課題に対し、自分らしく追究する力
 - (3) 追究を通して、自分の生き方、考え方を再認識し、実践する力

多彩な自主活動

- 自由闊達で個性豊かな附属横浜中学校の校風は、生徒たちによる多彩な自主活動にも表れています。生徒会、委員会の活動などは、生徒自らの創意工夫によって運営されています。
 - ◇評議会：毎月、本部役員6名と各委員会委員長、各クラス学級委員、部活動長が一堂に会し、クラスや委員会の活動報告があり、その月々のテーマに沿って活発な話し合いが行われます。
 - ◇委員会：全部で8つ(学級委員会、美化委員会、保健委員会、体育委員会、図書委員会、放送委員会、学芸祭委員会、選挙管理委員会)の委員会があり、日々の定例活動や月一回の委員会活動だけでなく、行事の際には特別な活動も行っています。

● 一般的な部活動に代わる「Fy型-Circle活動」は、生徒と全教員が協働して創り出した活動です。「生涯にわたって前向きに学んだり、生活したりするための基盤となる資質・能力を育むこと」を目的とし、生徒が主体となり、様々な種目を体験しています。



評議会の様子



収穫祭

本校の概要

本校の歩み

- 昭和 22. 5 神奈川師範学校女子部附属小学校高等科を分離独立し、神奈川師範学校女子部附属中学校として発足。
- 昭和 24. 6 校名を横浜国立大学神奈川師範学校横浜中学校に変更。
- 昭和 26. 4 校名を横浜国立大学学芸学部附属横浜中学校に変更。
- 昭和 41. 4 校名を横浜国立大学教育学部附属横浜中学校に変更。
- 昭和 53. 4 海外帰国子女定員枠を新設。
- 昭和 56. 8 中区立野地区より本大学工学部跡地の弘明寺キャンパスへ校舎移転。今日に至る。
- 平成 9.10 校名を横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校に変更。
- 平成 12.11 本校校舎が有形文化財の指定を受ける。
- 平成 16. 4 横浜国立大学が国立大学法人となる。
- 平成 19. 6 神奈川県立光陵高等学校との中高連携が公示される。
- 平成 24. 4 神奈川県立光陵高等学校との中高連携が始まる。
- 平成 24. 5 スクールカウンセラー、図書館司書を配置。
- 平成 29. 4 校名を横浜国立大学教育学部附属横浜中学校に変更。
- 令和 4. 9 スクールソーシャルワーカー配置。
- 令和 5. 4 横浜国立大学 D&I 教育研究実践センターを基盤とした産官学連携インクルーシブ教育環境推進事業「共生社会の実現を担う次世代育成プロジェクト」取組。

本校へのアクセス



施設紹介



体育館



レクチャールーム



多目的ホール

普通教室	9室(更衣室あり)
特別教室	第1理科室 第2理科室 技術科室 家庭科室 レクチャールーム パソコン室 音楽室 国語科室 被服・社会科室 校務室等 校長室 職員室 事務室 保健室 会議室(4室) 相談室 同窓会室 ICT支援員室 図書室
施設	プール(屋外・25m×6コース) 体育館 多目的ホール

制服紹介



夏服



冬服

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校

YOKOHAMA National University

〒232-0061

神奈川県横浜市南区大岡 2-31-3

電話：045 (742) 2281

FAX：045 (742) 2522

◎学校の様子は HP にも掲載されています

<https://yokochu.ynu.ac.jp>

当校HPをご覧になる際は、上記のURL
または、右のQRコードで検索してください。

